女子中学生の運動に対する愛好的態度の育成に向けた体育授業のあり方に関する一考察
−ベースボール型球技のティーボールの活用を通して−
A consideration about physical education classes to encourage women in junior-high school to like sports through Tee ball in baseball type game

1K08B074-8　栗原 八寿子
指導教員　主査 吉永 武史先生　副査 吉村 正先生

【序　章】

〈研究の動機〉

現行の中学校学習指導要領（1998 年改訂）においては、「ソフトボール」が球技の内容の１つとして位置づけられていた。しかし、他の球技との選択で履修させることとなっていたため、多くの中学生が一度もベースボール型の球技を学習することなく、中学校を卒業しているというケースがみられた。また、女子中学生はベースボール型の学習経験が少なく、投動作のみならず打撃動作も効率よく実行することができない場合が多い。そのことが障壁となって、これまでの女子の体育授業ではベースボール型のソフトボールが取り上げられる機会が少なかったのではないかとも考えられる。

そこで 本研究では、女子中学生の運動に対する愛好的態度の育成に向けた体育授業のあり方について考察することを目的とした。具体的には、女子中学生の運動に対する愛好的態度を調査し、その分析結果を踏まえながら、ティーボールを活用したベースボール型球技の学習指導プログラムについての提案を試みることとした。

〈研究の方法〉

体育科教育学に関する資料にもとづいて体育授業の現状と課題について検討し、「良い体育授業」を創造していくための条件を明らかにする一方で、実際に取り組まれている体育授業の実態から体育嫌いを生み出してしまうメカニズムについて理論的に分析を試みた。そして，実際の女子中学生を対象に、運動に対する愛好的態度に関する調査を実施し、その分析結果にもとづいて女子中学生の運動に対する愛好的態度の実態を明らかにした。そして、女子中学生の運動に対する愛好的態度の実態を踏まえながらベースボール型球技の学習指導プログラムについて提案した 。

【第１章】体育授業の現状と課題

第１章では、体育授業の目標と良い体育授業を実現するための条件について詳述し、体育授業の現状から体育嫌いを生み出すメカニズムについて言及した。実際に取り組まれている体育授業の実態から体育嫌いを生み出してしまうメカニズムについての理論的に分析を試みた。佐久本ら（1979）による「運動嫌い」を生じさせる要因に関する研究より、技能・適性的要因ならびに教科内容的要因は男子よりも女子のほうが極めて高くなっていること、そして教科内容的要因に関しては、男子の 28％に比べて女子はその倍近くの50％となっていることが明らかにされていた。また、技能・適性的要因も男子の 7％に比べて女子は 20％とその差が顕著にみられ、女子の「体育嫌い」の要因である教科内容については、指導者・仲間・運動種目・規則理解などという要因が指摘されていた。加えて、技能・適性的要因については、運動神経や運動の得意・不得意、技術の有無が関係していることが明らかにされていた。

【第２章】女子中学生の運動に対する愛好的態度に関する実態調査

「運動嫌い」に関する先行研究では、技能・適性的要因ならびに教科内容的要因が男子よりも女子のほうが高く、特に技能・適性的要因については、運動神経や運動の得意・不得意、技術の有無が関係していたことが明らかになった。そこで 本章では、女子中学生の運動に対する愛好的態度に関する実態についての調査を行った。「体育嫌い」が顕著に表れるのが中学校期であることから、女子中学生の運動に対する愛好的態度を調査し、その結果を分析することによって、「体育嫌い」を減らしていくための学習指導の手がかりを得たいと考えた。

【第３章】ベースボール型球技の学習指導プログラムの提案

第２章のアンケート調査の分析結果より、中学校女子を対象としたベースボール型球技の学習指導プログラムについて検討した。授業つくりのポイントとしては、生徒がベースボール型の醍醐味を享受できるように、打撃動作を含めた基礎技術の習得ならびにティーボールを基にした簡易化されたゲームを学習指導過程に位置づけたことがあげられる。女子中学生は運動有能感が低いことから、ゲームパフォーマンスを発揮するために求められる技能に関する学習を、実際のゲーム状況と関連づけた教材も設定した。

【結　章】

ベースボール型が未経験の女子中学生に対してソフトボールを直接的に学習させることは、習熟段階の観点からかなり困難であるといえるが、「止まっているボールを打つ」ティーボールから学習に取り組ませることで、ベースボール型の醍醐味を享受させることができると考えられる。また、易しい教材を提供することで基礎的な技術を身に付き、そのことが女子中学生 の運動に対する愛好的態度を高めることも繋がると考えられる。